

静岡文化芸術大学における 匠領域の設置



静岡文化芸術大学デザイン学部

匠 匠領域

静岡文化芸術大学では、2019年4月、伝統的な建築・工芸についての歴史、文化、および現代社会との関わり等についての知識と受け継がれてきた基本技能を修得し、現代社会と呼应しうる新たなデザインを生み出すことのできる人材の養成を目的に、匠領域を設置した。

なお、「匠」とは、優れた技術を有する職人、および彼らによって継承されてきた伝統的な技術を意味する。

- ▶ 受験生・保護者・高校教員の方へ
- ▶ 在学生・保護者の方へ
- ▶ 卒業生の方へ
- ▶ 地域・企業の方へ
- ▶ 大学紹介
- ▶ 学部・大学院
- ▶ 研究活動
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 進路・就職
- ▶ 入試案内



新しい時代、新しい社会をリードできる人材の育成

文化政策学部

文明観光学コース

デザイン学部

匠領域

2019年4月、新たな2つの教育プログラムがスタート!

匠 設置の背景

我が国の伝統建築・工芸産業は、生活様式や市場の変化に加えて、職人の高齢化や後継者不足といった問題もあり縮小の傾向にある。

一方で近年、伝統建築・工芸とデザインの協働により現代の消費者のニーズに合わせた商品が、日本のみならず海外市場においても高い評価を受けるなど注目されており、デザインの活用による需要の拡大や産地の活性化に向けた期待も高まっている。



高岡市の鋳物メーカーによる自由に曲げて使用できる錫の籠

匠 設置の背景

伝統建築・工芸

社会における位置付けが変化し、閉じた領域としての存続は困難になりつつある。

デザイン

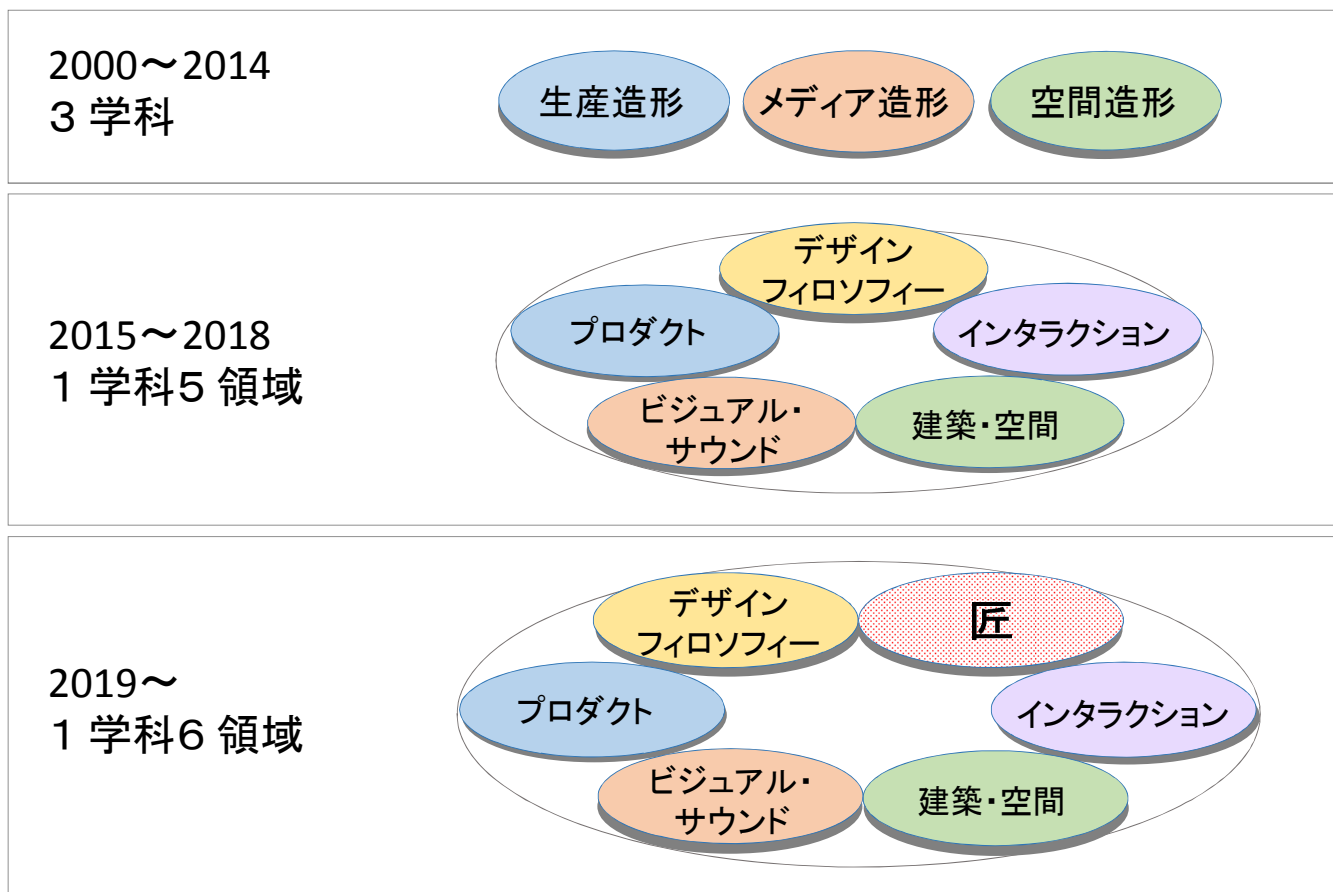
様々な社会問題の解決に向け、地場産業やより広範な産業との接続が模索されている。

伝統建築・工芸とデザインのマッチングに注目が集まり、海外需要の創出に向けた産業としての期待も高まりつつある。

伝統建築・伝統工芸に関する専門知識・スキルに加え、高い企画立案力や調整力を持った専門家の育成が求められる。

継承された文化や高い技術を守りながら、文化・芸術に関する知識やデザイン教育をベースに、現代社会のニーズに応える21世紀の伝統建築・工芸を考え、提案のできる専門家の養成が必要。

匠 静岡文化芸術大学におけるデザイン教育



匠 教育内容

伝統建築・伝統工芸に携わる専門家を組織的・計画的に養成するもので、旧来の徒弟制や専門学校などによる技術の継承とは異なる教育内容を想定。

	伝統建築	木工芸 漆芸	金属工芸	染織
卒業研究・制作 総合演習	それまでに得た知識、技術をもとに、各自が設定した伝統建築・工芸に対するテーマによる、調査研究または作品制作			
造形・素材加工演習	伝統工芸に使用される素材の特性を生かした造形作品制作			
基礎演習	伝統工芸の基本的なスキルを身に付けるための基礎演習			
講義科目	日本伝統建築	木のデザイン		テキスタイル概論



伝統建築関連産業：

- 一級・二級建築士(木造建築、伝統建築)
- プランナー(古い町並みの再生・保存)

伝統工芸関連産業(木工、金工、染織)：

- クラフトデザイナー(雑貨、生活用品、ジュエリー etc.)
- プロダクトデザイナー(家具、雑貨)
- テキスタイルデザイナー
- 小売り(雑貨、ファッション)
- 工芸販売(木工芸、金属工芸、テキスタイル 他)

林業関連産業：

- 木材加工、木製品製造

その他：

- 自治体の工業試験所、伝統工芸品作家

匠領域の開始

2018年(先行イベント)

- 8月：大工作業台作りWS
- 10月：匠公開講座「木の匠」
- 12月：匠公開講座「織の匠」
- 12月：工芸継承展

2019年

- 4月：匠教育開始
- 7月：匠公開講座「布のデザインと匠の技」
- 「日本を創った漆芸文化」



宮大工による槍鉋
(やりカンナ)デモ



ホゾ穴加工体験



ちょうな体験



注染染め体験